

大学生として  
Jリーグデビュー経営学科3年  
高部 聖 君

プロで経験した事、  
特に精神的な部分でチームに還元できるものが  
あればと思っています

3月19日、本学サッカー部の高部聖君が日本サッカー協会より、大学のチームに登録したままJリーグなどの試合に出場可能な「JFA・Jリーグ特別指定選手」に認定された。受け入れ先の東京ヴェルディではJリーグの公式戦にも出場。プロの厳しさに触れ、「精神面で成長できたと思う」という東洋大学期待の大型FW(フォワード)に話を聞いた。

東京ヴェルディが高部君に興味を持ったのは東洋大学との練習試合だった。「その試合でたまたま僕が点を決めたんです。それで当時の監督が興味を持ってくれたらしく、その後ヴェルディの練習に参加させてもらいました。そこでも点を取って、1月からは本格的に練習に参加するようになりました」

Jリーグ初出場は4月5日

(土)、Jリーグ1stステージ第2節の対FC東京戦。この試合では後半残り1分からの出場であったが、次節の横浜Fマリノス戦では念願のスタメン出場を果たした。しかし、「フィジカル、基本技術、判断の早さなどもっと向上させなければと痛感させられました」と納得してはいない。結局試合に出場したのは3試合のみだったが、2軍にあたるサテライトリーグの試合ではプロの世界をより強く感じた。「ハングリー精神というのはこういうものなのか、を目のあたりにしました。みんな一軍にあがろうと必死ですし、試合に勝てばそれだけ給料は上がっていく。サッカーで食べていくってこういうことなんだ、と実感しました」

出身は山梨県の白根町(現南アルプス市)。サッカーを始めたきっかけは、「地元では野球の少年団がなく、近所の友達はみんなサッカーをやっていた自然とボールを蹴っていました。中学までのポジションはMF(ミッドフィールダー)でした」当時の憧れは、ラモス、カズ、武田らを擁して全盛期のヴェルディだった。そんな憧れのヴェルディで試合に出場できたのだからこれほどの幸せはないだろう。「練習にはラモスさんや武田さんも来てくれました。ラモスさんには怒られもしたけど、夢のようでしたね」

中学のサッカー部では県3位の成績が最高。「それほど強いチ

ームではありませんでした」と謙遜するが、県選抜にはしっかりと名を連ねている。その県選抜での活躍がスカウトの目にとまり、あの中田英寿を輩出した山梨県の名門、韮崎高校に入学する。3年時は冬の全国高校選手権は出場できなかったものの、キャプテンとしてチームをまとめた。「もともとグイグイ引っ張っていくタイプじゃないし、キャプテンとして不足していたところもありました。だから監督にはよく怒られましたね。初めてサッカーをやめたと思ったのもこの時です。でも苦しい練習があったからこそ今の自分があると思います」

ヴェルディとの契約は5月いっぱいまで終わり、現在は東京都大リーグ一部の秋季リーグ戦に向けて練習の日々が続いている。目標は「チームの優勝。それに、得点王も狙いたい」と頼もしい言葉が返ってきた。「今年のチームは1・2年生中心ですが、波に乗

れば良いところまで行くと思います。そのためにもプロで経験した事、特に精神的な部分でチームに還元できるものがあればと思っています」

最後にこれからの展望を聞いた。ずっとサッカーは続けていきたい。今まで両親をはじめ様々な人にお世話になりました。その人達のことを考えると簡単にはやめられませんよ。プロでは正直ほとんど何も通用しなかったと思っています。だから、これから卒業までの1年半でどれだけ成長できるかだと思っています。そして、また誰かの目に留まれば、いいことないですね」

Jリーグの試合に出場して、天狗になる人間も少なからずいるだろう。しかし高部君は自分の実力を冷静に、そして客観的に見る事ができる。そういう人間こそ成長の伸びしろが多くあるのではないだろうか。秋季リーグでは一皮むけた高部君の姿を期待したい。



写真提供/東京中日スポーツ